学習院大学史料館
ミュージアム・レター
Gakushuin University
Museum of History
Museum Letter
No.23
発行日 ● 平成25年(2013)9月20日

もくじ

ごあいさつ……1
学習院・永青文庫・東洋文庫　三館連携展示
「東洋学の歩いた道」特集 ……2－3
三館連携展示のご案内 ……4

第71回　学習院大学史料館講座のお知らせ

学習院・永青文庫・東洋文庫 三館連携展示

「東洋学の歩いた道」
記念講演・シンポジウム

平成25年10月19日（土）14：00～17：00
会場：学習院創立百周年記念会館正堂

14：00　記念講演　斯波義信氏（東洋文庫長）
「東洋学のおこりと東洋文庫」
14：45　シンポジウム　パネラー　①村松弘一氏（学習院大学教授）
②三宅秀和氏（永青文庫学芸員）
③牧野元紀氏（東洋文庫主幹研究員）
16：00～17：00　ディスカッション（上記講師全員による）

入場無料・事前申込不要

ごあいさつ

史料館では、このたび永青文庫・東洋文庫と連携し、展覧会「東洋学が歩いた道」を開催いたします。「東洋学」を共通のキーワードとしながら、各館の蒐集の特徴や担当者の着眼を生かし、1館では実現できない多彩な内容の展示をめざしています。この3館は人脈の点で浅からぬ関わりがあるのですが、地理的にも文京区と豊島区という隣り合う区に存在しています。そこで、今回は3館を結ぶウォーキング・マップを作成し、私は実際にこの道を館員有志と共に歩いてみました。もっとも、史料館から永青文庫までは約30分で無理なく歩けましたが、その後は護国寺まで足を伸ばしたところで力尽き（7月末のことで、なにしろ暑かったのです）、四国のお遍路さんのように、護国寺から東洋文庫へと上り坂を含むルート後半の踏破は日を改めてということにしました。

もちろん、3館連携展示のタイトルにある「道」は、学問の発達を意味する比喩として使われています。東洋諸国の歴史を包括的に扱う「東洋学」は、日本では西洋の影響下に明治維新後に発達したものです。初期の代表者の一人で学習院でも教鞭を執った白鳥庫吉は、大学では西洋史専攻でした。東洋学研究に志したときには、「僕の前に道はない／僕の後ろに道は出来る」（高村光太郎「道程」）という状況だったことと察せられます。

もともと、日本は中国から直接、あるいは朝鮮半島を経由して文化的影響を受け、源泉としての中国文化の研究には長い歴史がありました。それが明治になって「東洋学」になったとき、対象が拡大しただけでなく、研究姿勢に帝国主義的要素が加わったことは否定できません。純粋な学問的関心が動機であったにしても、東洋学の発展は帝国主義の伸張と手を携えていました。その後遺症が最近また新たに意識されるようになったことはご承知のとおりです。東洋学の研究対象となった国々とわが国が真の和解に至る道は、果てしなく遠いのかもしれません。

それでも私たちは、今「東洋学の歩いた道」を見つめ直すことが希望へと続くという思いをもって、この展覧会を開催することにいたしました。関係者各位に厚く御礼申し上げます。

（館長　高橋裕子）